

雑 感

赤沢学校開校より、明治、大正、昭和の御代に移り此の100年間、我が家4代の家族17人が制度上在学の年数に差こそあれ、初等教育の場において基礎教育の恩恵を受けたことは幸福であった。

私が今も心に浮ぶ次の言葉がある。

1. 手のうちに習い覚えし宝こそ

用心せぬど盗む人なし

1. 芸は身を助ける

学校教育、家庭教育、社会教育で身につけた知識、技能は終生の尊い宝である。世の進運につれて今日のように近代化された校舎、整備された家庭、よい環境、そして充実せる職員のもとにより学習のできる子供達は、明治時代の吾々と比較すれば夢のようで大躍進である。更に義務年限の延長に従い、上級学校への進学の道も広く、そして高く、従って芸も自由自在に身につき、将来の幸福が約束される時代に変ったことを思えば感無量である。

幸に今回の記念事業を機会に次の世紀へ希望を持って期待する。

親も子も孫も通ひし学びやの

ももとせをへし今日のよろこび

(元高豊村立青年学校長 石田常一)